

授業力向上推進プロジェクト委員会

所属： 岐阜県立飛騨高山高等学校

氏名： 林 輝将

1 個人テーマ：望ましいペーパーテストの提案 —「総合問題」からの脱却—

既に「グローバル社会」という言葉は世の中に浸透し、英語を習得することの重要性はますます高まるばかりである。令和2年度からは小学校でも英語教育が必修化され、大きな転換期を迎えている。小学校に続き、令和3年度に中学校、そして令和4年度には高等学校で新学習指導要領が実施され、英語教育にも大きな変革がもたらされる。その中には、今回の改訂で新たに整理された三つの観点からの、観点別学習状況の評価の実施が挙げられる。

観点別学習状況の評価を行う理由の一つには、指導と評価を一体化させることがあると考える。教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学習を振り返ることで、効果的な教育活動の提供と着実な学習内容の習得に繋がる。観点別学習状況の評価を有効に活用し、英語学習者の言語運用能力を向上させるためにも、根本的に改善すべき事項はないのか疑問が生じた。

2 テーマ設定の理由：養いたい能力の伸長に繋がる問題形式・出題方法の精査

授業を行う上で指導方法を見直し、改善を図ることは授業者に常に求められていることで、もはや義務であると言っても過言ではない。しかし、教授法が優れているだけでは生徒の能力伸長が達成される訳でもない。定期的に学習到達度を把握し、個に応じて不足を補うアプローチを行うことも教育活動では重要な側面を担う。その学習到達度を測るものがテストであり、試験である。

教師という立場上、年間に多くのテストを授業内外で生徒に実施し、その中には教師自らが作成したものを使用することも少なくない。特に定期考査に関しては授業で学習した内容に沿って問題を作問することが一般的である。しかし、従来のテストで生徒の学習到達度を適切に測定できているのか見直すことはこれまで疎かにされてきたのではなかろうか。学習指導要領が改訂されるこの転換期に、設問内容や出題方法を今一度見直す必要性に着目した。

3 研究内容（取組内容）：「読むこと」と「書くこと」を測るためのペーパーテストの設問例の作成

観点別学習状況の評価の観点が「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理された。高等学校外国語科における「内容のまとめり」は、5領域に分類され、それぞれ「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「読むこと」、「書くこと」と定められた。観点別学習状況の評価では5領域それぞれで、上記の評価の観点毎に評価することが求められる。テストの実施方法について領域ごとに研究することが理想であるが、まずは「読むこと」と「書くこと」に焦点を絞ることにした。

特に英語はコミュニケーションツールとしての側面を持ちつつも、入学試験の一教科としての側面を併せ持つことは紛れもない事実である。英文和訳や総合問題形式のテストは大学の入試の影響を少なからず受けている。しかし、グローバル化に対応できる能力の伸長に繋がるテストが理想であり、そのために「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価するためのペーパーテストの問いを実際に作成し、従来の設問と比較検討することで相違点を整理した。

4 成果

「知識・技能」を問う設問例

従来の定期考査では授業内で扱った本文と同等の文章を題材にし、そこで空所補充や並び替え、英文和訳などを出題する、いわゆる総合問題形式で作成していた。しかし、そこにはいくつかの問題が内在している。例えば本文中で学習した表現[take away (名) (名)を取り除く]を理解しているか確認する際に、従来では本文の該当箇所を空所にし、そこを埋める形式の設問を作成していた(図1)。しかし、その出題方法ではその表現を正確に理解した上で正解したのか、または本文を暗記していた短期記憶により何となく正解したのか測定することができない。

When reading a restaurant menu, we often wonder what the dish will actually look like. No worries. Japanese restaurants have taken (I) the anxiety, and often the disappointment, by creating shokuhin sampuru — food samples.

(中略)

(1)空所(I)に当てはまる前置詞を答えなさい。【各 1 点】

そこで問いたい表現を含んだ未習題材の英文を用意し、そこを空所補充する形式に変更した。正解を導き出すために、与えられた英文を解釈した上で空所に当てはまる表現について思考する必要がある(図 2)。この設問は本文中で学習した表現[take part in(名)(名)に参加する]を理解しているか確認する問題であるが、正解ではない他の三つの選択肢を当てはめても表現としては成立する。しかし、文脈を把握できないと正解できないため、【知識・技能】を活用できているのか確認する上で、有効な設問であると考えられる。

(3) Hundreds of people dressed in the traditional white with red scarves take () in each run.

A)away B)place C)part D)pleasure

文法問題も同様である。未習題材の英文を解釈した上で、場面や状況に適する解答を文法的に導き出す必要がある(図 3)。この設問は授業内で学習した文法事項[使役動詞 (make/let/have/get)]を理解しているか確認する問題である。基本的な文法事項に加え、意味的な違いを把握していなければ正しい選択肢を選ぶことはできない。

状況を読み、括弧に入る語句を語群から選び、記号で答えなさい。(複数回選択可)【1点×5】(思)

(1)

Tom wants his hair cut. He decided to go to the barber. He will tell the clerk politely in the following way.

I want to () my hair cut.

(2)

I really have to do my homework today. Mom is angry at me. She yelled at me in the following way.

I will () you to do your homework.

(3)

My sister hasn't eaten anything since this morning. She wants to ask me to give food in the following way.

() me have something to eat.

(4)

Mary's song is wonderful. Everyone can't help dancing. People praise her songs in the following way

Her songs () everyone want to dance.

(5)

You asked your father to make lunch for you. You would tell your mother about it in the following way.

I () Father cook lunch for me.

語群： (a)make (b)let (c)have (d)force

※時制は気にしないものとする

「思考・判断・表現」を問う設問例

従来の定期考査で本文の内容を問う設問を作成する際に、本文に即して名詞や指示代名詞が指す内容を日本語で答えさせる形式が多かった(図 4)。しかし、授業内で読解した本文を引用している以上、考査中に英文を読まなくても授業の記憶を頼りに正解することが可能であった。また設問の問われ方に違

いはあるが、いわば所定の英文を和訳する問題と同じである。英語の能力伸長を測るためのテストで、日本語で答案用紙を埋めることに妥当性があるのか甚だ疑問である。

図4

Food samples are said to have started from the Japanese mottainai spirit. Restaurants once had (ウ)the habit of showing a real sample of “Today’s Dish” outside and throwing it away after closing. Then in the early Showa period, plastic food samples were first invented. Now, foreign tourists are even purchasing sampuru to bring home as a souvenir. This custom may soon spread to other countries as an amusing, charming part of Japanese food culture.

(5)下線部(ウ)の具体的な内容を本文に即して日本語で答えなさい。

改善策として定期考査を作成する際に本文をパラフレイズして使用した(図5)。このことで、内容は既習でありながら、初見の文章を定期考査で読解させることが可能になる。また和訳問題や日本語で答える設問を減らした。なぜなら、与えられた英文をただ日本語に直すことができるだけでは英語を真に活用しているとは言えない。英文を言語材料として理解した上で、筆者の意図を文脈から読解できて初めて英語を活用できる程度の能力を有していると評価できるだろう。

図5

The menu for many school lunches in France looks like a restaurant menu, with courses of fresh salad, a hot main dish, cheese, and fresh fruit. In France, lunch is traditionally the most important meal of the day. With more mothers working, more children eat lunch at school. In 2011, the French government announced a new school lunch program to promote the consumption of local, seasonal food, instead of fast food. This lunch experience teaches children about the national food culture.

(1) Which student is **MOST** likely to be from the French school?

(A)Bob: “I usually eat a lot in the morning and at night, but I skip meal at noon.”

(B)Kelly: “I understand a lot about my food culture from the meals I eat at dinner.”

(C)Robert: “Not only does school teach me Math and Science, but it teaches me how to cook deliciously.”

(D)Billy: “I know about the food culture in my country because I am used to eating it at my school.”

5 課題

生徒の英語力の伸長を評価するためには、初見またはそれに近い形式で問題を作成することは効果的である。しかし、その形式で定期考査を実施するには二つの注意すべき大きな課題が存在する。それらの課題の提言とその解決策についてそれぞれまとめたい。

一つ目に、教師が何か手立てをしなければ、生徒が定期考査を見据えた学習を取りづらくなる可能性があることである。私がこれまで作成してきた定期考査の問題は、授業で扱った文章をそのまま使用し、空所補充や並び替え、和訳問題として問うことが主であった。そのため、生徒は本文を書き写したり、音読したり、授業プリントを見直したりなど、定期考査に向けた学習方法やプロセスがある程度明確であった。しかし、テスト後に行ったアンケートの結果からは、未習題材の英文やパラフレイズされた文章で定期考査が出題される場合、定期考査に向けてどのように準備をしたらよいか悩むようである。生徒の英語力の伸長を目的に実施した取り組みが、学習する意欲や機会を奪ってしまつては本末転倒である。そのため、従来よりも丁寧に、そしてより具体的にテストの出題範囲や明確な学習方法を示すことが望ましい。負荷を掛けつつも、生徒の学習意欲を削がないような配慮が今後ますます重要になるだろう。

【知識・技能】は、学んだ言語材料が実際に使用できるようになっているか確認するために、初見またはそれに近い形式の英文を出題するが、教科書の本文で学習した単語や熟語等を理解していれば解ける問題である。そのため、表現や文法事項をまずは理解し、その上で繰り返し音読や筆写することが望ましいと考える。

【思考・判断・表現】は、初見またはそれに近い形式の英文を出題するが、教科書の本文を学習する際に活用した技能を応用すれば解ける問題である。授業では、①必要な情報、②概要、③要点、④詳細

の4つのいずれかに沿って本文を学習している。まずはそれを意識して本文を復習した上で、購入している副教材から類似の英文を用意し、授業と同様の技能を活用して演習する。テスト本番でも同様な形式で、英文の内容だけを変えてしまえば、生徒は授業で学んだスキルを意識しながらテストに向けて明確な学習ができる。

二つ目に、適切な選択肢を用意しなければ、未習題材の英文が無意味になることである。例えば本文中に登場した表現[day by day 日に日に]を出題する際に、未習題材の英文を用いて設問を作成した(図6)。しかし、この設問は未習題材の英文を読解しなくても既存の知識や授業内の記憶を用いて正解を導きだせる。作問する際に何を出題するのか、またどの選択肢で作問するのか精査することが必要である。

図6

(7) It's been a mild winter and, day () day, there's a little more warmth in the sunshine.

A)above B)for C)by D)to

観点別学習状況の評価を実施することは、生徒の英語力の伸長を間違いなく後押ししてくれるだろう。しかし、その効果を最大限に発揮するためにも評価の材料をもう一度見直すことが急務であり、特にペーパーテストにおいて改善すべき項目がいくつかあるように感じる。まずは「総合問題」からの脱却から取り掛かり、新しいペーパーテストのスタンダードを研究していき、普及させていきたい。